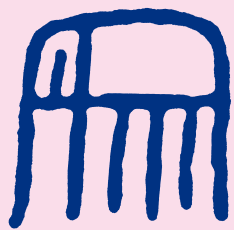


2016.9 NO.63

同窓會報



〒610-1197 京都市西京区大枝杵掛町 13-6
京都市立芸術大学美術学部同窓会 象の会
発行人：同窓会会長 上村 淳之
TEL/FAX 075-334-2218
携帯 /090-7353-6999
http://www.kyogei-ob.jp
E-mail info@kyogei-ob.jp

SILENT
@KCUA

9.10から開催

2016.9.10・sat — 9.19・mon

京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

11:00—19:00 (最終入場 18:30 まで) 休館日：会期中無休 入場料：無料

平面だけでなく、立体作品も！
毎年好評の匿名型チャリティオークション
気に入った作品に入れて、アートと被災地を応援しよう！

2016 年度 同窓会役員会と懇親会の報告

同窓会象の会は、2016年（H28）7月3日（日）15:00～同窓会定例役員会と懇親会（京都ロイヤルホテル&スパ 2階「翠峰」）を開催し、2015年度の事業と会計決算、2016年度の事業計画案と予算案について審議しました。

出席役員数は47名（内委任状が20名、役員総数77名）で、役員会は成立し、引き続き懇親会では、大学から鷺田清一学長（理事長）、淀野実副理事長（新任）、荒木裕一事務局長（新任）の出席を得て交流を行いました。



【第1号議案 2015年度 事業報告】

- ・新入生に入学記念品贈呈「京都芸大130年の歩み 京の美 都の響」 4月3日
- ・音楽学部同窓会「真声会」との連絡会議 5月27日、11月27日
- ・象の会役員会・総会の開催（日航プリンスホテル京都） 6月27日
- ・「同窓生名簿2015」の発行 7月1日
- ・「会報象」の発行（2回：9月上旬、2月上旬）と編集委員会の開催
- ・芸祭に「象の店」出店 10月31日～11月2日
- ・「京都芸大同窓会アートフェア2016」の開催 3月26日～4月3日
- ・新卒業生、修了生に終身会費納入のお願いを発送 3月下旬
- ・「芸大作品展」同窓会賞授与（12点、賞状・賞金） 3月23日
- ・卒業、修了生にお祝い贈呈（「同窓生名簿2015」郵送） 3月下旬
- ・ホームページ運営委員会（HPの保守、管理、更新）
- ・同窓会後援名義使用申請2件、同窓生の作品展HPに掲載56件
- 大学移転支援事業「京都芸大同窓会アートフェア2016」の報告
内容の詳細は、「京都芸大同窓会アートフェア2016」の図録及び本誌3ページをご覧ください。

【第2号議案 2015年度会計報告と監査報告】

- ・一般会計＝収入 15,744,097円 支出 6,701,638円
昨年度同様に終身会費納入が予算を大幅に増加したため収入増となりました。（終身会費収入予算90万円に対し675万円の決算）
差額 9,042,459円＜次年度に繰越＞ ①
- ・基金会計＝収入 12,300,000円
支出 7,200,000円（アートフェアへの貸付金）
差額 5,100,000円＜次年度に繰越＞ ②
- ・名簿会計＝収入 4,654,025円 支出 5,046,935円
差額（－）392,910円＜次年度に繰越＞ ③
- ・アートフェア会計＝収入 24,089,509円
支出 6,889,509円
残金 17,200,000円 ④
＜大学移転支援に1,000万円寄付、同窓会基金会計へ720万円返済＞
- ・財産合計＝30,949,549円＜①＋②＋③＋④＞
1号議案、2号議案は、一括審議されましたが、監査報告も含め特に意見や質問も無く、賛成多数で承認されました。

Head line

2016 年度 同窓会役員会と懇親会の報告	1	キャリアデザインセンターから	8
京都芸大同窓会アートフェア 2016 事業報告	3	新任のあいさつ	8
同窓会の会費と財政状況	4	芸術資料館収蔵品展 後期	9
同窓会役員名簿（2016 年度）	4	五芸祭の報告	9
京都市立芸術大学美術学部同窓会展	5	Relay Talk「象の会・いろあわせ」	10
同窓会展に寄せて 創造的循環へのアーカイバル・プラクティス	5	今秋も「象の店」開店	11
同窓生だより「私はアトリエ座・最後の座長」	6	事務局だより	12
2015 年度「京都市立芸術大学作品展」同窓会賞受賞作品	7	編集後記	12

【第3号議案 2016年度 事業計画案】

- ・新入生に入学記念品贈呈（「京都芸大130年の歩み 京の美都の響」） 4月4日
- ・京都芸大同窓会アートフェア2016の実行委員会開催 5月17日
- ・象の会役員会、懇親会の開催（京都ロイヤルホテル&スパ） 7月3日
- ・大学支援金交付（大学の要請に基づき） 7月上旬
- ・「会報象」の発行（2回：9月上旬、2月上旬）と編集委員会の開催
- ・芸祭に「象の店」出店 11月5日～7日
- ・音楽学部同窓会「真声会」との連絡会議 秋に開催予定
- ・「同窓会展」80年代を中心に ギャラリー@KCUAにて 2月18日～3月5日
- ・「芸大作品展」同窓会賞授与（13点予定、賞状・賞金授与） 3月下旬
- ・卒業、修了生にお祝い贈呈（同窓生名簿2015 郵送） 3月下旬
- ・ホームページ運営委員会（HPの保守、管理、更新）
- ・総務委員会の開催 秋以降で未定
- ・同窓会後援名義使用申請、同窓生の作品展HPなどに掲載

【第4号議案 2016年度 予算案】

- ・一般会計＝収入 13,042,500円 支出 11,992,000円
支出で600万円を基金会計へ繰出したため支出額が増
差額 1,050,500円＜次年度に繰越し予定＞
- ・基金会計＝収入 18,300,500円 支出 500円
差額 18,300,000円＜次年度に繰越し予定＞
- ・名簿会計＝収入（－）287,900円 支出 7,500円
差額（－）295,400円＜次年度に繰越し予定＞
- ・アートフェア会計＝収入 17,200,000円
支出 17,200,000円
残金 0円

＜大学移転支援に1,000万円寄付、同窓会基金会計へ720万円返済＞

3号議案と4号議案は関連するので一括審議され、特に意見や質問も無く、賛成多数で承認されました。

その他（幹事の補充）

2016年度からの幹事として次の2名の方が補充・追加されました。

学内幹事：田島 達也（芸術学） 伊東徹夫先生退職の後任

学外幹事：谷澤紗和子（油画専攻 2005年卒業）

役員会での主な意見・質問

- ・大学支援金の使途について、学生の海外留学を助成できる方法が考えられないか？
- ・同窓会賞の選定について、同窓生が何らかの形で参加し関与して選考する方法は考えられないか？ 現在の方法でも良いのでは無いか？など

大学移転支援のための寄付金授与式

京都芸大同窓会アートフェア2016の収益金から大学へ寄付する1,000万円の授与式を行い、上村淳之同窓会長から鷲田清一学長へ目録が贈呈されました。



上村会長より学長へ目録贈呈

- 大学の鷲田学長からご挨拶を受け、淀野副理事長より大学移転整備の経過を聞きました。主な内容は、2020年に一部移転する計画が京都市の事情で白紙に戻り、2023年頃に一括移転する方向に変わったとのことでした。



鷲田学長あいさつ



中井顧問のカンバイ発声



京都芸大同窓会アートフェア 2016 事業報告

名称：京都芸大同窓会アートフェア2016

Art Fair 2016, Alumni Association, Kyoto City
University of Arts

期間：2016年3月11日(金)～13日(日)＜プレ展＞

10:00～20:00

2016年3月26日(土)～4月3日(日)

11:00～19:00 ＜28日(月) 休館＞

場所：＜プレ展＞京都芸術センター

＜本 展＞京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

主催：京都市立芸術大学美術学部同窓会象の会

後援：京都市、京都市教育委員会、京都商工会議所、京都新聞、
KBS京都、京都銀行、(公財)京都市芸術文化協会、
(公社)京都デザイン協会、京都市立芸術大学

協賛：染・清流館、ジーク株式会社

協力：京都市立芸術大学音楽学部同窓会真声会

出品作家：248人

出品作品：317点

入場者数(延べ人数) 2,031人

《プレ展示》		
3/11 ～ 13	63人（2会場3日間）	
	《展覧会》	《コンサート》
3/26	362人 （オープニング200人）	50人
3/27	225人	45人
3/29	163人	25人
3/30	168人	25人
3/31	151人	45人
4/01	141人	30人
4/02	219人	25人
4/03	239人	55人
合 計	1,731人	300人



Webによる閲覧と入札件数

閲覧件数 2,513件(会期中のみ)

入札件数 323件

落札率：94.0%(298/317)

落札総金額：16,575,883円

落札額の分布

1万円～	2万円未満	109点(36.6%)
2万円～	5万円未満	120点(40.3%)
5万円～	10万円未満	44点(14.7%)
10万円～	30万円未満	18点(6.1%)
1万円	30万円以上	7点(2.3%)
合計		298点

＜参考＞30万円以上の7点で落札総額の40.6%を占める。

決算報告：収入 24,089,509円

支出 6,889,509円

残金 17,200,000円

残金処分：大学移転支援を目的に10,000,000円を大学へ寄付

借入金の7,200,000円を同窓会に返金

アートフェア2016実行委員会

委員長 望月重延(同窓会副会長)

委 員 阿部 緑(同窓会副会長)、辻喜代治、鶴田憲次、
野崎邦雄、人長果月、開本恭子、藤田瑞穂、古川加津夫、
安井友幸 計10人

真声会会員によるリレーコンサート

3月 26日(土)	13:00～、15:00～ 「ピアノソロ」 新坂智子
27日(日)	13:00～、15:00～ 「歌とピアノ」 中島貴子、鈴木 潤
29日(火)	15:00～ 「歌と中国笛」 楊 雪元
30日(水)	15:00～ 「歌と中国笛」 楊 雪元
31日(木)	13:00～、15:00～ 「ヴァイオリンデュオ」 藪野巨倫、西尾安梨沙 11:00～ 「ピアノ連弾」 松下桜子、竹迫友梨
4月 1日(金)	13:00～、15:00～ 「ヴァイオリンとピアノ」 カミサンタイ (阿素湖素子、鍛冶田邦子)
2日(土)	13:00～、15:00～ 「ヴァイオリンソロ」 尾崎未佳
3日(日)	11:30～、13:00～ 「コントラバスデュオ」 中島 滢、春田奈津 14:00～、15:00～ 「ピアノ連弾」 笹まり恵、佐渡春菜





同窓会の会費と財政状況 = 貴方の会費が同窓会を支えています =

現在、住所の判明している会員数は約6,500人ですが、この内2,700名程（41％）は今まで会費が支払われたことの無い会員です。残り3,800名の内1,000名程は、今まで数回ほど会費が納められた方です。

会費（終身会費含む）を継続して納入頂いている方は、現在、2,800名程（43％）です。

同窓会の活動は、同窓生からの会費（年額1,000円）と新入生入会金（1人15,000円）で賄われています。2015年度決算で見ますと、年間収入500万円（入会金220万円、会費280万円）、支出が670万円、単純170万円が不足となり積立金（事業基金）を取り崩して運用しています。

現状の同窓会財政状況は、赤字体質と言えます。財政好転のために、会費値上げ、在校生から終身会費徴収、収益事業実施、事業縮小・経費縮減などが考えられますが、先ず取り組むべきは、**<会費徴収率の向上>**だと考えています。

過去（相当に昔）には、入学時に同窓会費を支払えば終身会員となり以降会費は納めなくていい慣習や、大学教員は会費が免除されていた時期がありました。しかし現在そうした慣習・制度は撤廃され、大学の教員であっても卒業生には会費を納めていただいています。一方、会則では、会費免除者を次の通り定めています。

- ・名誉会員
- ・現旧教員で本学に在籍されていなかった会員（特別会員）
- ・過去10年以上継続して会費を納入し、満80歳を超え、会費免除申請された会員

つまり、これ以外の会員には会費納入の義務があります。

会報象送付の時、会費納入のお願いと振替用紙を送っています。会費未納の方々には、同窓会活動の一層の発展と会費の趣旨をご理解賜り、各位のご都合に合わせた納入方法でお振込み下さいますようお願い申し上げます。

（代表幹事 野崎邦雄）

同窓会役員名簿（2016年度）

● 印は新幹事

名誉会員	梅原 猛	中西 進	潮江 宏三	建昌 哲
顧問	中井 貞次	川村 善之		
名誉会長	鷺田 清一（理事長・学長）			
名誉副会長	淀野 実（副理事長）	荒木 裕一（事務局長）		
	学 内	学 外		
会 長		上村 淳之（1957（昭32）日）		
副会長		望月 重延（1967（昭42）塗） 阿部 緑（1983（昭58）染）		
代表幹事	安井 友幸（漆工）	野崎 邦雄（1969（昭44）洋）		
会 計	西田 真人（日本画）	東田 幸治（1983（昭58）油）		
監 査	長谷川直人（陶磁器）	水野 収（1979（昭54）日）		
幹 事	フィッツジェラルド サイモン（油画）	三宅 五穂（1951（昭26）彫）	中井 貞次（1954（昭29）染）	榊原 吉郎（1957（昭32）洋）
	出原 司（版画）	矢田 精治（1958（昭33）洋）	芦田 裕昭（1959（昭34）日）	伊藤 義明（1959（昭34）図）
	金氏 徹平（彫刻）	舞原 克典（1961（昭36）洋）	二階堂 忠（1962（昭37）洋）	川口 凱正（1963（昭38）日）
	砥綿 正之（構想設計）	佐野 賢（1966（昭41）彫）	古川加津夫（1970（昭45）D）	竹内 三雄（1972（昭47）彫）
	滝口 洋子（VD）	中野 順二（1972（昭47）塗）	出井 豊二（1973（昭48）D）	佐藤 敬二（1974（昭49）D）
	藤本 英子（環境D）	杉本 清（1974（昭49）D）	小山 格平（1976（昭51）D）	岩間 香（1977（昭52）日）
	塚田 章（PD）	酒井 雅子（1978（昭53）洋）	市川 博一（1982（昭57）陶）	児玉 靖枝（1984（昭59）油）
	日下部雅生（染織）	村岡 幸信（1985（昭60）日）	河原 有伽（1986（昭61）版）	茶谷 文子（1986（昭61）PD）
	田島 達也（芸術学）●	谷本 天志（1989（平1）油）	安藤 吉準（1989（平1）構）	辻野 宗一（1990（平2）日）
	横田 学（教職）	新田 恭子（1990（平2）染）	安井 健二（1992（平4）VD）	渡邊 野子（1993（平5）油）
		福岡 崇（1994（平6）PD）	吉岡 佐知（1995（平7）日）	新道 牧人（1997（平9）彫）
		福本 双紅（1997（平9）陶）	正垣 雅子（1998（平10）日）	新道 尚美（1998（平10）陶）
		川越 里美（1998（平10）陶）	北里美絵子（1998（平10）染）	黒川 彰宣（1999（平11）彫）
		人長 果月（1999（平11）構）	徳永 杏子（1999（平11）VD）	小川久美子（1999（平11）染）
		関林 宏祐（2001（平13）日）	谷口 晋也（2001（平13）陶）	吉岡 千尋（2004（平16）油）
		毛呂 祐子（2004（平16）芸）	井手本貴子（2005（平17）日）	谷澤紗和子（2005（平17）油）●
		久門 剛史（2005（平17）彫）	佐野 暁（2005（平17）漆）	古川きくみ（2007（平19）環D）
		公庄 直樹（2007（平19）漆）	小西 愛子（2008（平20）環D）	中村 潤（2009（平21）彫）
		村田ちひろ（2009（平21）染）	萩原 佳奈（2010（平22）漆）	村井 都（2013（平25）版）
		濱野 志織（2014（平26）芸）		



京都市立芸術大学美術学部同窓会展

「1980年代を中心に」－大枝杓掛時代－

日 時：2017年2月18日（土）～3月5日（日）
 月曜休館 入場無料
 11:00～19:00（最終入場は18:30まで）
 会 場：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
 主 催：京都市立芸術大学美術学部同窓会象の会、
 京都市立芸術大学
 作品内容：1980年から1990年頃の間、に在籍／在職していた学
 生・教員による当時の作品（作家所蔵作品、大学芸
 術資料館所蔵作品）
 作品展数：約20点
 関連事業：「大枝杓掛時代の芸大」をテーマにギャラリートー
 ク、座談会など（予定）

<作品公募>

公募対象：① 同窓会象の会の正会員としての義務（会費納
 入）を果たしている会員及び特別会員
 ② ①の中で1980～90年の間に在学され、1980年
 代に制作された自己の作品を準備できる会員
 公募作品：1980年代に制作された作品でジャンルを問いません。
 サイズは展示可能な範囲
 （平面100号まで、立体1m立方以内）
 既発表作品でも可とします。
 ＊該当作品が大学芸術資料館で所蔵されている場合
 は、その作品で応募・展示することができます。

=作品公募=

公募期間：2016年10月1日（土）～12月24日（土）まで
 応募方法：応募を希望される会員は、電話、郵便、FAX、メール
 などで公募期間内に同窓会事務局まで連絡ください。
 折り返し応募用紙を送りますので記入いただき返送
 ください。
 （応募者が少なく展覧会の開催に支障をきたす場合
 は、主催者の判断で別途出品者を依頼する場合があ
 ります）
 出 品 料：無料（作品の搬出入に要する費用は出品者でご負担
 下さい）
 そ の 他：展覧会のDMは主催者で用意し事前に出品者へお渡
 しします。
 搬出入など詳細は、出品が決まった時点で連絡します。
 問い合わせ：美術学部同窓会象の会事務局 担当／開本恭子

本展では、作品展示と合わせて、当時京都市立芸術大学
 および東京藝術大学にて開催されていた展覧会シリーズ
 「フジヤマゲイシャ」関連資料の展示ができればと考えて
 おります。

つきましては、同窓生の皆様がお手持ちの「フジヤマゲイ
 シャ」関連資料についても、作品と同様に募集致します。
 貸与いただける方は資料内容を同窓会事務局までお知らせ
 ください。

「同窓会展」に寄せて

創造的循環へのアーカイバル・プラクティス —「関西ニューウェーブ」を軸とした80年代再考

現在本学では、2023年に予定された崇仁地域への全面移転に
 向けて、教育、施設整備の両面から、新たな大学のあり方をめ
 ぐる議論が交わされています。

時を遡ること45年余り、1970年3月に「大学とは本来何であ
 るか」という大学の理念に対する本質的な問いに始まる「京都
 市立芸術大学美術学部の改革のための案」が作成されました。
 そして、東山区今熊野にあった旧校舎から、現在の西京区大枝
 杓掛町校舎への移転がなされた1980年まで、10年間にわたり改
 革案の試行が行われました。

当時の本学の姿は、移転に向けて新しい大学像を求める現在
 の本学と重なり合います。将来構想を進めていくにあたり、前
 回の移転前後の本学とその背景について改めて考えることは、
 より良い移転のあり方を探るための重要な手掛かりとなり得ま
 す。

しかし、先の移転までの教育については創立100周年を機に
 資料化されているものの、その後については、2年前に設立され
 た芸術資源研究センターによって総合基礎実技のアーカイブ作
 業が取り組み始められたことを除き、ほぼ整理されていない状
 態です。また、日本の美術界に目を広げても、「具体」や「も
 の派」など、戦後日本美術の海外での評価が高まる中、それに

続く80年代の動向もまた注目されつつあるものの、日本の美術
 研究において80年代は未だやや抜け落ちた時代となっており、
 整理された文献や資料等も少ないのが現状です。

欧米から輸入された概念に依らず独自の表現が進化していっ
 た80年代の日本美術を考える際の重要なキーワードとして「関
 西ニューウェーブ」と呼ばれる若手作家たちの活動が挙げられ
 ます。その勢いは関東のそれを凌ぐものとして、当時「西高東
 低」などと評されることもありました。このムーブメントの中
 心を担う作家の多くが、1960年前後に生まれ、80年代前半頃に
 本学の学生であったことに注目し、ギャラリー@KCUAを中心
 に学内にプロジェクトチームを立ち上げ、移転直後の本学の
 教育や学生の動向についての調査を継続して行っています。

2016年度同窓会展は、このプロジェクトの一環として実施
 します。本学芸術資料館に収蔵された80年代の卒業・修了作品
 や同窓生の皆様から出品された当時の作品の展示を通して、80
 年代の動向を「歴史」に位置づけ、その時代を知らない若い世
 代とも情報を共有することを可能にし、今後の現代美術の発展
 や振興に大いに役立っていくことを願う企画となります。どう
 ぞご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

（ギャラリー@KCUA 学芸員：藤田瑞穂）

「私はアトリエ座・最後の座長」

決して名誉な事ではありませんが、私が最後の座長になってしまいました。私が美大に入学したのは1966年（昭41年）で、卒業は70年（昭45年）。美大に入学して芸大卒業となった第一期生で、世に云う「団塊の世代」です。先輩の勧誘を受け、何も知らずにアトリエ座に入会しましたが、一学年125名の中、直ぐに入会したのは平田陽子（中田・日）と僕の2人だけでした。

一年目はマネージャー担当で、同じデザイン科の岡野誠二の助手になり、その年の座長は三上浩（デ・彫専）でした。誰が役割を決めたのか、60人も座員がいても自然に座長が決まり、自然に役割が決まっていたのは、今から考えても不思議な空気でした。

その年の公演はブレヒトの「家庭教師」でした。俳優座の千田是也を追いかけて、名古屋の劇場に行きましたが空振り。その後、円山公園の旅館に滞在中の千田氏とアポイントが取れ、演出の和田守弘（陶）、主役の黒川彰夫（洋）を連れて旅館で3時間の会談が来ました。マネージャー初の仕事でした。その後はパンフレット作りと広告取りでしたが、塩野義製菓や睡眠の広告も先輩を通して簡単に取れました。睡眠創業者は日本画出身の先輩で、戦後四条小橋にベニヤ張りの小さな餃子店を開き、当時すでにチェーン店を展開してました。岡野さんと2人で夜9時に伏見御殿（会長自宅）に行き、朝の4時まで絵専時代の話を面白く聞いて、パンフレットの広告が取れました。

翌67年は、「ドン・ジュアン」でした。座長・演出は河内光彦（日）、舞台装置が清嶋滋（デ）で、山下孝彰（石堂・日）が演じた石像はたいへん印象的でした。そして68年は私が座長になり、舞台装置も担当し、森田和男（日）の演出で「ものみな歌でおわる」と題した出雲の「お国歌舞伎」を取り上げ、12月に京都会館第二ホールで上演しました。翌年にはその地方公演もしましたが、『これが最後の公演になる』とは誰も思ってもいませんでした。69年の学生運動の波や学生気質の変わり目もあるでしょうが、今から思うと劇の根本にもなる、演出の力量を持つ人がいなかった事が理由だと思います。丹後加悦の中島光明（日）さんのお寺で合宿した楽しい思い出もあります。

私事になりますが、美大では授業とアトリエ座を楽しんで、卒業

後はイタリア留学を決めました。当時は観光旅行ツアーもなく航空券は高価だったので、神戸港から貨物船と汽車、飛行機、

汽車を乗り継ぎ、ウラジオストック、ハバロフスク、モスクワ、ウィーンを経由し、一週間かけイタリアのフィレンツェに着きました。最終目的地はミラノでしたが、ペルージャで7ヶ月間イタリア語を学びました。卒業後すぐに渡欧を決めたのは、日本の学校が3月に終わり、イタリアの大学が10月から始まるその期間を利用して語学をやる事と「語学は若い時にやるべし」が頭にあった為でした。しっかりイタリア語を学んだことは、後々仕事をして行くのに大変役に立ちました。一年ミラノ工科大学に在学したものの何も身につかず、このまま帰れないと仕事を探しましたが、既にミラノの建築事務所には日本人が殆どいる状況でした。それでも日本人を待っていた建築家が一人だけいたのです。ベルナスコーニというオリベッティ本社やミラノ支店を設計した建築家で、そこで設計士として建築図面を描き続けました。

8年間、銀行やブティックの設計・施工管理をしてから独立し、ミラノでデザイン事務所を開設し日本との仕事を始めましたが、思ったほど家具の仕事はなく、その頃ミラノに台頭し始めたファッション分野に入って行きました。東レでは、関留新造氏（日）の世話になり、水着のプリントを初め、多数の繊維・ファッションメーカーとの仕事を行い、アシックスのスキーウエアデザインは、最も思い出が深く15年間も制作しました。1989年～2003年に渡ったオーストリア・ナショナル・チームのスキーウエアです。長野冬季オリンピックで優勝したオーストリアのヘルマンマイヤーのダンヒル・スーツも私のデザインです。勿論イタリアの会社とは、ワインオープナーを始め台所用品などのデザインも手掛けました。その後IDや店舗設計の仕事も行い、東京の阿佐ヶ谷に出来た『カフェ・ベローチェ』第一号店は、設計・デザインに加え店名の「ベローチェ」（伊語・迅速に）もネーミングしました。現在はミラノやパリの見本市会場に出展する日本企業のブース・デザインも手掛けています。本業以外では北イタリア日本人会とミラノ補習校を設立しました。

こうして振り返ってみると、初め勤めた建築事務所が正式に労働ビザを申請してくれた幸運もありますが、ミラノに着いて先ず世話になったのは美大の先輩夫婦。外地で日本との仕事を続けられたのも美大、アトリエの先輩を始め、多くの人々との出会いに結びついていたのを今更ながら気付きます。靴のフェラガモのポスターで賞を取り、その後援を受けてミラノ現代美術館で大々的な展覧会をされた、アトリエ座とデザイン科の大先輩である田中一光氏にも歓迎会に呼んで頂きましたし、同期で舞台衣装で活躍された緒方規矩子さんともミラノで出会いました。アトリエ座で結ばれた思い出も多くあります。

その時の自己紹介の挨拶は「私はアトリエ座・最後の座長」でした。





2015 年度

「京都市立芸術大学作品展」同窓会賞受賞作品（12 点）

会期＝2016年2月10日～14日 会場＝京都市立美術館、京都市立芸術大学構内



甘樫丘
今村 緑
絵画専攻（日本画）院2回生



穢土一春
谷原 菜摘子
絵画専攻（油画）院2回生



的屋 ニューソドム
南 大樹
絵画専攻（構想設計）院2回生



tinsel garland turn to
上田 優奈
絵画専攻（版画）院2回生



記号・衝撃
寺嶋 剣吾
彫刻専攻（彫刻）院2回生



Hashio Botanical Garden
大橋 千晶
デザイン専攻（ビジュアル・デザイン）院2回生



gene
池田 郁
デザイン専攻（プロダクト・デザイン）院2回生



まなざしの行方
森川 彩夏
工芸専攻（陶磁器）院2回生



隅 角
左近 純
工芸専攻（漆工）院2回生



うろこを覗くと見える湖
松宮 恵子
工芸科（染織専攻）4回生

<論文>

近代日本画における垂鉛筆を使用した彩色技法
—明治33年京都市美術工芸学校絵画科卒業作品を事例として—

紀 芝蓮
保存修復専攻（保存修復）院2回生

<論文>

森村泰昌の歴史的位置と「美術」への問題意識の変遷
—プロマイドとしての在り方を巡って—

中田 愛乃
芸術学専攻（芸術学）院2回生

キャリアデザインセンターは今年の4月で設立5年目を迎えました。

様々な支援の中から、ユニークな活動をされている卒業生を招いた講演会「10年後の京芸生」(写真)の今年の様子を一部紹介いたします。



吉田朝麻さん(2007年美術学部デザイン科プロダクトデザイン専攻卒業)は、デザイナーとして企業に就職した後、退職。静岡県浜松市を拠点に、「マッスルNTT」名義での音楽活動や、印刷媒体ZINE作りや様々な印刷技術を体験出来る場作りユニット「ZING」(ジング)としての活動など、地元のアーティスト、公共施設、企業とも連携した様々な活動についてお話しくださいました。

堀久美子さん(2007年美術研究科絵画専攻油画卒業)も、卒業後はデザイナーとして化粧品会社に就職しましたが、退職し、学生の頃から続けていた出張カレー屋「森林食堂」を2012年に店舗化。“カレー屋”を舞台に、植物や農業、自転車、音楽、美術、デザインなど、多様な場と繋がりながら展開するユニークな活動をご紹介くださいました。

宗方秀斗さん(2007年美術学部工芸科漆工専攻卒業)は、アートユニットMONGO TARDIOとしての制作活動や、徳島県海陽町で保養所の管理人として毎日サーフィン三昧の生活を3年

間過ぎたのち、2011年に出家。臨済宗大徳寺の僧堂に安居。出家するに至ったご自身の考えや修行について、圧巻の世界観で聞き手の心を奪いました。

音楽の卒業生からは、細江真弓さん(打楽器奏者/2007年音楽学部管打楽器(打楽器)専攻卒業)古川健太郎さん(バリトン歌手・クラシックサロン経営/2007年音楽学部声楽専攻卒業)にそれぞれお話を伺いました。

同時期に在学されていたみなさんのトークが交差することで、実体験からなるお話の奥行きが増し、貴重な機会となりました。

「10年後の京芸生」の様子は、抜粋して瓦版増刊号として、キャリアデザインセンター、教務学生課、ギャラリー@KCUAにて配布しております。



[お問い合わせ]

TEL : 075-334-2348

Mail : career@kcua.ac.jp

HP : <http://www.kcua.ac.jp/career/>

facebook : <https://www.facebook.com/kcua.c.up>

twitter : https://twitter.com/KCUA_career

新任のあいさつ

共通教育・講師・哲学

永守 伸年



新しい職場では、とにかく足をつかって周囲の地形を把握することになっているわたしは、毎日のように大枝を歩きまわっています。ただ、いつもは未知の土地に呼びおこされるはずのワクワク感を、ここではあまり感じることができません。散策するうちに、遠くない将来に大学がこの場所から離れてしまうという事実が、目に見える風景にはやくも喪失感を与えていることに気がつきました。

けれども、そんな寂しい気持ちを吹きとばすように学生たちは元気で、やはり毎日のように作品をもってきてお喋りをしてくれます。ひとつ悩むのは、どの

学生が何を作っているのか覚えられなくなってきたこと。どうやって作品を忘れないでおうか?

わたしはいま、散策によって得られる想像上の地形をつかった記憶術を試しています。大学の北側、山陰道にかけていちど落ちこみ、それから両翼を広げるように盛りあがる里山の至るところに作品をならべ、好きなときに訪れてながめる(大枝山の中腹には彫刻をたくさん生やしている)。移転するまでに、起伏に富んだこの土地を作品でいっぱいにすることを楽しみにしています。

平成 28 年度後期

芸術資料館収蔵品展 (2016.9 ~ 2017.3)

開校135年を越える本学の教育史において、当館の収蔵品は蓄えられてきました。今年は、第1期では近年の新収蔵作品、第2期では日本の四季を描いた近代絵画、第3期では妖怪が登場する物語絵の模写作品などを展示しました。9月からは以下の展示を開催しますので、皆様のお越しをお待ちしております。

第4期

「平安百景—粉本にみる明治の京都」

9月20日(火)～10月23日(日)

幕末・明治に活躍した望月玉泉(1834-1913)は、明治21年(1888)「平安百景会」を主催し、京都の名勝百景を選んで百図を制作しました。本展では、望月家旧蔵の平安百景の粉本を通して、古都の趣き漂う寺社や庭園の風景から、時代の移り変わりを感じさせる街灯輝く四条河原の風景まで、明治の京都の世界をご紹介します。



望月玉泉模写《平安百景之内 鴨磧納涼之図》(部分) 明治前期

第5期

「美人画—粧いと風俗」

10月29日(土)～12月4日(日)

明治から大正期に描かれた美人の粧いと風俗描写にスポットを当てた展示です。土田麦僊《髪》や木村斯光《もだえ》等、華麗な模様の着物や、優美で色香のあるしぐさが目を引く作品を出品します。また中国絵画に関心を持った森谷南人子の《麗艶》等、中国女性をモチーフとした作品にもご注目ください。



土田麦僊《髪》1911年

五芸祭の報告 = 今年は金沢で =

今年度の五芸祭は、石川県金沢市にある金沢美術工芸大学にて5月19日から22日の日程で開催されました。天候にも恵まれ全日、清々しい晴天のうちに五芸祭を終え、競技も滞りなく行うことができました。

開会式にて、音楽学部のファンファーレから五芸祭の始まりました。そして、初日から京芸のラグビー部、剣道男子個人が優勝という華々しい結果を飾ってくれました。その後も、テニス女子シングルス、バレーボール女子の部で優勝を飾ってくれました。総合優勝は、東京藝術大学となり、少し悔しい結果となってしまいましたが、参加した学生一同、精一杯頑張って素晴らしい成績を残してくれました。

五芸祭の企画としては、全日程で学生の出店によるアートマーケットとKimpact展・うい展を開催し、初日は、開会式に始まり、五芸祭委員交流会が行われました。二日目にはkimpact paintや五芸カフェ、加賀毛針アクセサリー作り体験、琉球芸能の公演、音楽プロデューサーのピノキオピーさんをお招きした講演会が行われました。三日目は、二日目に引き続き、五芸カフェやオーケストラによるコンサート、スタジオ



ジブリでアニメーターやアニメ監督をされていた金沢美術工芸大学の出身の米林宏昌さんの講演会が行われました。そして最終日、吹奏楽によるコンサートが行われ、閉会式にて五芸祭が終了しました。

学生展示においては、うい展にて学長賞をナーゴヤシックによる「ぬくもり」が、学生投票により樋口絵里香さんの作品が受賞しました。

今年の五芸祭も、参加した学生一同、開催までに準備をしていた五校の五芸祭委員により、無事盛況のうちに終了しました。そして、来年は新しい優勝旗を迎えての五芸祭となります。来年度の開催地である東京藝術大学にて新優勝旗のお披露目となります。

6月で新しい五芸祭委員と代替わりをし、また一からの五芸祭づくりとなりましたが、これからも五大学で素晴らしい五芸祭をできるよう頑張っていく所存です。(五芸祭京都実行委員会 委員長)





同窓生が同窓生を紹介し、リレーしていく近況報告のコーナーで、懐かしい人と出会う楽しみ、いつか自分に廻ってくるかも知れないドキドキ感のある連載です。



あけぼし しんじ
明星 神次

1971年（昭46）日本画科卒業

卒業後、府立高校で4年間講師の後、京都市中学校、支援学校で定年退職まで32年間勤務しました。その間、中学校美術教育研究会の委員長や京都芸大美術教育研究会の役員を長年勤めましたので研究大会等でご一緒しました芸大卒業の先生方が多数おられます。特に海外研修でヨーロッパ、アジア等を旅行しました先生方とは今も交流が続いております。現在、美術教育研究会の京都支部長をしていますが、京都支部では毎年、祇園祭の頃に「双線美術展」を開いています。また、来年6月には、京都で研究大会を開催しますので、今、その準備を進めているところです。研究会の会員にはご案内を差し上げますので京都でお目に掛かりたいと思います。

もう一つ、ライフワークになっているのが「狂言」です。これは卒業時、日本画教授の故奥村厚一先生に人間国宝狂言師、故茂山千作（当時茂山千五郎）師の家へ連れて行ってもらったのが始まりです。以来「狂言」にはまってしまって、なんと秘曲「釣狐」まで披らきました。川村善之先生の出版祝賀会では「福の神」、田村隆照先生の受勲祝賀会では「祝言」を演らせて戴きました。毎年9月22日に金剛能楽堂、2月11日に観世会館で狂言会を開いています。また、ご来聴ください。



ごとう あきら
五藤 彰

2013年（平25）構想設計卒業
ラグビー部所属



大学卒業後は東京で3DCGを使用した業務に携わっています。3DCGとはコンピュータ内の3D空間上にてオブジェクトを作成し、映像化する技法です。ピクサー映画のあの感じです。

学生時代から映像という点ではやっていることは変わりませんが、社会に出て映像を制作するにあたって一番最初に感じたことは、いかに自分が映像制作に対して無知であったかです。自分が知っていることはまだ氷山の一角ですらないくらいのごく一部の領域で、アニメーション、モデリング、リギング、ライティング、コンポジット、エフェクト、レンダリング、マテリアル等あらゆる分野が本当に奥が深く、この仕事を始めて4年目になりますが、未だに新しい発見や驚きに満ち溢れています。それほど社会で学べることは多く、そんな未知なる興奮を秘めたこの仕事が好きです。

最近「TRY-MEN4」というラグビーを題材にしたアニメーションを発表しました。いつかピクサーや、ドリームワークスのような作品に携われるようにこれからも日々精進を続けようと思います。



次号に紹介される方は、

喜田 健嗣さん

1981年（昭56）日本画専攻卒、日本画大学院修了です。
よろしく…



次号に紹介される方は、

曾我部 世津子さん

2015年（平27）日本画専攻卒、日本画大学院修了です。



今秋も「象の店」^{しょう} 開店 ＝芸祭で同窓会模擬店＝

<11月5日(土)～7日(月)>
12時～20時(7日は18時閉店)

卒業生、在校生、教職員、市民の交流の場として、芸祭期間中、同窓会模擬店「象の店」(店主：上村淳之会長)を開店して今年で4回目になります。多くの同窓生皆様の来店を心からお待ちしていますので、どうぞ添付のワンドリンク無料券を持って洛西大枝へお越しください。

場所／京都市立芸術大学構内(中央棟2階南側出入口：テラス)

内容／湯豆腐く協力：京とうふ藤野>と

お酒<ビール、日本酒など>

(飲物ワンドリンク無料券：添付)



芸祭テーマ

「地獄のファン! ファン! ファーレ!」

今年のテーマを端的に説明すると、「京芸から我々の実態を発信しよう!」というものです。数年後にキャンパス移設を控えた今、年々と芸祭の規模が縮小し、内に籠ったものとなりつつあります。芸祭が盛り下がったまま移設を迎えるのは一京芸生として望むところではありません。このような現状を打開したいという想いから、今年度は『学外への発信』をコンセプトに据え芸祭テーマを決定するに至りました。今年の芸祭では学外パレードと学外展示を復活させ以前よりも規模を拡大し、積極的に外部への進出を図ります。OB、OGの方々から受け継いだ芸祭に再び活気を取り戻すため、そのきっかけとなるよう我々芸祭本部がファンファーレを響かせます。今年を節目として、芸祭がさらに発展していくことを本部一同願っております。

(芸大祭実行委員会 委員長)

キトリ線

平成28年度京都市立芸術大学祭 あたたか〜い湯豆腐のお店

美術学部同窓会「象の店」ワンドリンク無料券

京都市立芸術大学構内 中央棟2階 南側出入口付近

平成28年11月5日(土)～7日(月)

開店時間 (予定) 12:00～20:00(7日は18:00閉店予定)

※本券は美術学部同窓会「象の店」でのみ有効です。芸祭は11:00～開催予定。

美術学部同窓会



事務局だより

「同窓生名簿 2015」について

2015 年 7 月に発行しました「同窓生名簿 2015」まだ在庫があります。ご希望の方は代金 3,500 円（送料込）をご送金ください。折り返し送付いたします。但し、原則、同窓生 1 人につき 1 冊です。既に 2015 年版名簿をご購入の方はご購入できません。

「京都芸大アートフェア 2016」の図録について

今年 3 月から 4 月にかけて京都芸大ギャラリーアクアにて開催されましたアートフェアの図録を作成しました。まだ在庫がありますので、ご希望の方は 1,000 円（1 冊、送料）をご送金ください。折り返し送付いたします。

名簿、図録の振込先

郵便局に備え付けの青色の払込取扱票をご使用ください。
口座番号：01030-7-12844
加入者名：京都市立芸術大学同窓会
通 信 欄：ご希望の冊子名（冊数） 氏名、卒業年、専攻、住所（送付先）、電話等

2 月発行予定の次号、同窓会報 NO.64 は経費節減のため会費納入者のみに送りますのでご了承ください。

今号から会報発送の封筒を透明に変更しました。

同窓会会費納入をお願いします。終身会費納入期間を延長しました。

ニセ名簿業者、同窓会関係者や同窓生を騙って情報を聞き出そうとする者にご注意を

同窓会からの案内は、同窓会の所在地（大学内に設置）や電話番号が正しいことを必ず確認して対応ください。不審な点は同窓会へ電話などですぐにお問合せください。

▶ 同窓会へ連絡をお願いします。

●同窓会後援名義使用

同窓会会費を納入されている会員が主催する作品展など（個展、グループ展）で同窓会の後援名義使用を希望される方。

●展覧会の案内、情報

同窓会宛に送っていただいた展覧会の案内、情報はホームページや会報に掲載しています。

●満80歳以上の会員 会費免除を希望される方

過去10年間同窓会会費を継続して納入いただいた満80歳以上の会員で会費免除を希望される方。

●氏名、住所、電話、FAXなどを変更された時

お忘れになると会報などの諸情報をお届けできなくなりますので郵便、FAX、メールのいずれかの方法でご連絡ください。ホームページの住所変更フォームからも変更できます。

編集後記

●今夏は連日、猛暑日が続き、また、TVではRioオリンピックでの日本選手の熱き戦いが連日報道され、殊の外、熱気溢れる日々となりました。皆様におかれましては、お元気でこの夏を乗り切られましたでしょうか。

●さて、大学移転支援を目的に開催いたしました（3/28～4/3）「京都芸大同窓会アートフェア2016」は、多くの同窓生の皆様のご協力により、多数の力作が寄せられ、魅力ある作品展となりました。おかげさまで盛況のうちに終了することができました。また、「大学移転支援資金」として一千万円を同窓会より大学に贈呈することもできました。ご出品、ご入札していただきました皆様、また、会期中、会場内で美しい音楽演奏（リレーコンサート）でさらに場の雰囲気を高めて下さった音楽学部同窓会「真声会」の皆様にも心より御礼申し上げます。

●今年度は「アートフェア2016」に続き、「サイレントアクア」そして1980年代を中心とした「同窓会展」が開催される計画です。1980年代といえば、ちょうど大学が洛西大枝杏掛の地に移転し、新たな時代が始まった頃にあたります。あれから早、36年の月日が流れ、現在、再び平成35年を目途とする下京区崇仁地区への移転に向けて、計画が進められています。その動向につきましては、次号64号に掲載する予定です。

●恒例となりました上村淳之同窓会会長が店主を務めます同窓会模擬店『象の店』を、今年度も芸大祭期間中（11/5～11/7）に出店いたします。本誌最終頁の「ワンドリンク無料券」チケットを忘れずにご持参いただき、美味しい湯豆腐とお酒をお楽しみ下さい。皆様のご来店を心よりお待ちしております。

（会報編集委員長：阿部 緑）

キトリ線

JR京都駅北側バスターミナル2のりば

京阪京都交通バス 2・14・28 系統に乗り、芸大前（約45分）下車。徒歩すぐ。

阪急桂駅東口

京阪京都交通バス1・2・13・14・25・28 系統に乗り、芸大前（約20分）で下車。徒歩すぐ。

JR桂川駅・阪急洛西口駅

京阪京都交通バス11A系統（京都成章高校前行き）に乗り、芸大前（約15分）下車。徒歩すぐ。

